ランニングコスト節約

ザ・コンピュータのPOS

長崎市内の和酒専門酒販店「酒のひらどご屋」（吉田真一郎社長、1面参照）では、消費税増税と同時に酒類・外食を除く飲食料品を対象に軽減税率の適用が始まった2019年に、ザ・コンピュータ社の酒販店専用のPOSシステム「ベストパートナープラス」を導入。一部とはいえ飲食料品の取り扱いもあるので、その対応と、事務の効率化を目指したほか、さらなる事業環境の変化時にも支援を受けられる同社のサポート体制も評価した。

事務作業は大きく効率化

吉田社長は、「ベストパートナープラス」を推奨した。中小企業庁が当時、推進していた軽減税率対策補助金の活用が可能との説明も受けた。申請業務も同社で相当部分を代行するとの提案があり、導入を決意した」と語る。

導入の結果「売り上げや仕入れの管理、在庫確認などに加え、酒税報告書作成といった酒販店ならではの業務に対応した機能も備えているため、事務作業は大きく効率化した」と、同社長はシステムの優位性に高得点をつけている。

「特に大きいのは、伝票の印刷に関わるコスト削減。以前のシステムでは専用の連続伝票用紙に印刷する形式だったが、今は市販のコピー用紙に印刷できるようになった。これにより印刷にかかるランニングコストが年間で約10万円も節約できるようになった。また、プリンターの紙詰まりで作業が中断するケースが、今はほとんどないのも助かっている」という。

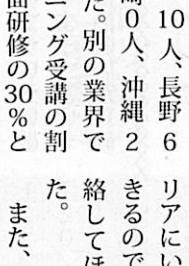
このように満足度の高いシステムの導入効果を受け、JR長崎駅近くで今春に開店した2つ目の店舗で〝迷うことなく〟再び「ベストパートナープラス」を導入している。

「ザ・コンピュータ社の高橋君は長崎の出身で、地元の飲食店や酒販業界にも通じているので、話が合うのもいい。互いに情報交換をしながら、さらなる販路拡大につなげたい」そうだ。

質疑3人で議論低調

小売近畿ブロック会

全国小売酒販組合中央会（小売中央会、吉田精孝会長）、全国酒販協同組合（全生協、三橋敏弘会長）の小売中央三団体近畿ブロック会（連絡協議会）は10月25日、大阪市天王寺区の大阪酒業会館に近畿の小売酒販組合役員約70人が出席して開かれた。三団体会長がそれぞれ中央情勢を報告し、小売酒販業者の多くが加入する保険・アフラックの募集代理店、川口の川口和彦社長は年配層にメリットの大きい新商品の内容を説明。質疑は、昨年と同じ顔ぶれの3人から。うち松元襄司・北但小売酒販組合理事長は地方の単位小売酒販組合の解散が相次ぐ危機を訴えた。なお、会議中、アサヒビールが発表した来年4月の値上げについて、ビールのメーカー出荷価格の引き上げ額は「ビール350ミリリットル缶7円、500ミリリットル缶10円、樽生ビール1トリットルあたり20円（いずれも小売価格ではない）」の情報提供が行われた。


大山理事長

大山近畿支部長「中央団体との連携を密に」

大山雅弘近畿支部長（大阪府小売酒販組合連合会会長）は「私たち近畿支部が力を入れているのは、小売中央3団体と密接な連携を保ち、組合員の声を的確に伝えること。先月には支部の要望書を中央会に提出し、返答をいただいた。今後とも組合員の協力が欠かせず、単に伝えるだけでなく、積極的に意見を集め、共に議論しながらその方向性を導き出すプロセスが必要だ。近畿全体として、このスピークアップの精神を大切にしていく」と支部運営方針を語った。

座長には脇田捷治・京都府小売酒販組合連合会会長が就任。

吉田小売中央会長は能登半島の地震と大雨などを例にわが国で災害が多発する現況に触れて「中央会として酒税還付金手続き簡素化などを要望し、組織としての災害対策を進めている」と報告したうえで「組合員の連絡先が店の住所と電話番号である場合が多いが、これを機会に携帯番号の登録で速やかな連絡できるようにしてほしい」と提案。

さらに8月20日から一部地域で先行している酒類販売管理研修のeラーニング（パソコンやモバイル機器などを利用してインターネット経由で行う学習方法）受講制度について「今年6月の通常総会で全国一斉開始に反対が多かったために東京、大阪、長崎、長野、沖縄で先行して実施。結果、スタートした8月は12日間で5人、9月は30日間で72名の受講があり、東京が最多54人、大阪10人、長野6人、長崎0人、沖縄2人だった。別の業界でeラーニング受講の割合は対面研修の30％との前例があるので、当中央会の場合はまだ少ない。これから徐々に増えていくのではないか。eラーニング研修が各連合会の対面リアル研修に影響を与えるとの懸念をいただいていたが、現時点で問題ない。eラーニング研修はほかの連合会のエリアにいつでも拡大できるので希望組合は連絡してほしい」と話した。

また、組合員向けの研修テキストの価格を値下げして、受講負担を引き下げる方針を示した。

↖7面につづく

アサヒのビール値上げ額示す

酒類eラーニング管理研修の1か月受講者実績は72人

秋の叙勲・褒章　加藤キリンビール元社長に旭日中綬賞

脇田京都小売組連会長は小綬章・藍綬

秋の叙勲・褒章が発表され、酒類業界から計23人が受章した。

◇旭日中綬章に▽加藤壹康・元キリンビール社長（79）、◇旭日小綬章・藍綬褒章に▽脇田捷治・京都府小売酒販組合連合会会長（80）と▽荒木章・元北陸三県卸売酒販組合理事長（70）、◇旭日小綬章・黄綬褒章は▽宮崎眞彰・兵庫県卸酒販組合理事長（71）、◇旭日小綬章は▽松岡俊太郎・元岩手県酒造組合会長（73）と▽松岡良治・埼玉県酒造組合会長（71）▽田中一良・元北海道酒造組合会長（67）▽中村盛彦・元徳島県酒造組合会長（67）▽丸本仁一郎・岡山県酒造組合会長（60）▽飯沼喜規・千葉県卸酒販組合理事長（70）▽廣瀬範三・元長崎県小売酒販組合会会長（78）▽水江浩一・元大分県卸売酒販組合理事長（64）▽村上栄司・福岡県小売酒販組合連合会会長（73）

松下敏彦氏には瑞宝小綬賞

元奈良税務署長、元酒類監理官の松下敏彦氏（70）は瑞宝小綬章を受章した。

累計得点最も高い平和酒造にエメラルド賞

全米日本酒鑑評会

日本国外で最も長い歴史を持つ清酒品評会、全米日本酒鑑評会が10月22～24日、ハワイ・ホノルル市内で開かれた。日本の197蔵元から計587点の出品があり、金賞161点、銀賞138点を選出。各部門の金賞受賞酒の中でも最も高い評価を受けたグランプリに精米歩合40％以下の「大吟醸A」部門は平和酒造（和歌山県海南市）の「紀土 無量山 純米大吟醸 精米歩合35」＝写真＝、同50％以下の「大吟醸B」部門は外池酒造店（栃木県益子町）の「望 bo：純米大吟醸 雄町」、「吟醸」部門は大和蔵酒造（宮城県大和町）の「雪の松島 海 -KAI- 吟のいろは 純米吟醸原酒」、精米歩合60％以下の「純米A」部門は仙台伊澤家勝山酒造（仙台市東区）の「勝山 特別純米 縁」、同60％を超える「純米B」部門は宮下酒造（岡山市中区）の「極聖 雄町純米」をそれぞれ選出。

各部門の次点の出品酒、準グランプリには「大吟醸A」部門は平和酒造の「紀土 無量山 純米大吟醸」、「大吟醸B」部門は清水清三郎商店（三重県鈴鹿市）の「作 雅乃智 中取り」＝写真＝、「吟醸」部門は六花酒造（青森県弘前市）の「純米吟醸 杜来」、「純米A」部門は清水清三郎商店の「作 穂乃智」、「純米B」部門は佐浦（宮城県塩竈市）の「純米酒 浦霞」＝写真＝が選ばれた。

また、第1回から今回までの審査における受賞結果について、金賞と銀賞の受賞結果を数値化して合計点を算出し、累計得点が最も高くなった蔵元に贈られるエメラルド賞には平和酒造が選ばれて栄誉に浴した。

秋の叙勲・褒章受章者は次の各氏。

◇黄綬　▽大谷修子・大谷酒造代表取締役（71）▽奥間尚登・元金武酒造社長（71）▽松瀬忠幸・松瀬酒造代表取締役（62）▽石川達也・杜氏（60）▽梅澤努・杜氏（64）▽中尾昌史・杜氏（68）▽西尾孝広・元杜氏（66）▽西村俊舗・元杜氏（89）

◇藍綬　▽岩崎喜一郎・山口県酒造組合会長（60）▽久家里三・大分県酒造組合会長（61）